

カナリヤ通信



第39号

「カナリヤ通信」では、さまざまな考え方をもちた女性が、社会の中で遅く、それでいて女性らしく声を出して、人生を楽しみながら働く姿を表現していきます。

～働き方について考え、気づく～

病中・病後

今回のテーマは「仕事と病後の両立支援」です。

仕事と治療の両立支援を後押し

「自分ががんや脳疾患等の病気にかかったら」と不安になる人が多いですが、がんについては治療の病状になりつつあること、さらに仕事の両立も可能になってきていることを知っておくと、いざという時、落ち着いて判断することができるのではないのでしょうか。実際、がん等になっても治療しながら働く人が増えてきましたし、企



業側もバックアップ体制を整備する動きも出てきました。今回は「働く人たちの病中・病後をテーマに、厚生労働省委託事業「がん対策推進企業アクト」の平成29年度がん対策推進企業表彰で「がん対策推進パートナー賞」(がんの情報提供部門)を受賞するなど先進的取り組みを行っている朝日航

私傷病ハンドブックを作成

働く意欲があっても仕事をする能力も高いのに、「病状やけがで働けない」「辞めざるを得ない」という社員に対して仕事と治療の両立支援を後押しするために作成しました。また、上司や同僚など周囲の理解や協力が得られるようにという願いもあります。

近年延長や継続雇用によって社員の高齢化が進み、さまざまな疾病にかかる社員が増え続けているため、病状やけがで通勤が難しく長期休業せざるを得ないケースが増えることは間違いないです。しかし、仕事に対して意欲があるのに、辞めてしまえば会社にとっては大きな損失です。社員にとっても生活や治療費など経済的に困窮してしまう可能性があります。そうならないためにも、このハンドブックを作成しました。

がんについては、一生に罹患する確率は2人に1人となっています。社内の傷病報告でも約4分の1ががんとなっています。現在、社会全体でも増え続けているという報告があることから、社員が罹患する確率は高くなっているかもしれません。

がんについて言えば、一生に罹患する確率は2人に1人となっています。社内の傷病報告でも約4分の1ががんとなっています。現在、社会全体でも増え続けているという報告があることから、社員が罹患する確率は高くなっているかもしれません。

がん、必ずしも不治ではない

ハンドブックには、グループ会社を含めた社内の私傷病(注1)罹患状況から「がん」の対応策、利用できる社内制度や給付、がんにおける症例と周囲の配慮例、Q&Aなどを盛り込みました。罹患した人だけでなく、周囲の社員にも参考になるように構成してあります。

がんはいつ発症するか分かりません。また、まだ多くの人々が「死の病」と思っています。しかし、現在は医療技術が進み、早期に発見し、適切な治療を受ければ必ずしも「不治の病」でなくなっています。だから



ハンドブック作成に携わった、朝日航洋の(左から)の場裕美さん、杉森純子さん、中島紫寿香さん

「万が一、罹患したら」といって恐怖心を拭き、健康診断を定期的に受けることで早期発見・治療に繋がると意識付けも目的の一つとなっています。

現在、がんを罹患していても治療と仕事をうまく両立している社員は増えています。周囲の理解が進んでいるため、職場ではお互いが不満に感じることが少ないようです。また、「必ず死ぬ」「恐ろしい病気」「なった人は不幸」といったマイナスのイメージを払拭してもらえらるよう、新入社員を始め社員に向けてがん教育も行っています。がんを罹患した社員には恐れず治療に臨むことも、治療中は「一時的にペースダウンすることもあるが、落ち着いたら元のペースで仕事をしてもいい」と思ってもらえ、それは、がんに限らず、他の私傷病や育児、介護をしている社員に対しても同じことが言えます。

病気の報告で制度を活用

社員は、適切な状態で働き続けるためにも、病気等について可能な範囲で周囲にオープンにしてほしいと思います。がんの場合、ステージにもよりますが継続的な治療と検診が必要とな

朝日航洋グループの取り組み

病気への正しい知識と周囲の理解が不可欠

正しい知識で周囲の理解を深める

がんについて言えば、今後罹患者は増えると言われています。しかし、進行度合い(ステージ)にもよりますが、治る可能性は一昔前より格段に上がっています。

ハンドブックは、がんに限らず私傷病に罹患した社員が安心して働き続けられるように、また、周囲も配慮ができるように構成されています。病状やけがをした人は、自分は100%仕事をこなしていると思っても、周りからは60%しかこなしていないと思われてしまう場合もあります。また逆に、病状がオープンになった段階で偏見を持つ人がいるかもしれません。そうならないように、病状に対して正しい知識と周囲の理解を深め、対策を講じておくことが重要と考えています。

注1:業務外の事由に発生した病気やけが
注2:私傷病休業が連続して7日以上になる場合、失効した年次有給休暇を積み立てておき、本人の私傷病の際に年次有給休暇として取得できる制度
注3:人事部所定の書式で、仕事をする上での注意・確認事項をかりつけの医師や看護士に確認し、罹患者が自身で記録する用紙。

私傷病の治療と仕事の両立支援ハンドブック



ハンドブックでは、朝日航洋グループの私傷病罹患状況や、がんという病気の説明、治療の流れと仕事との両立、休暇や給付金などの支援制度、配慮事例などがわかりやすく記載されています。もし、自分や同僚が罹患しても慌てることがないように工夫された構成となっています。

病中・病後の取り組み事例紹介 (アンケート)

- (1) 脳卒中・ガン・難病・けが等で継続が必要な社員に対する制度がありますか
ある
- (2) 制度がある場合は具体的に教えてください
①失効積立有給休暇制度(私傷病休業が連続して7日以上になる場合、失効した年次有給休暇を積み立てておき、本人の私傷病の際に年次有給休暇として取得できる制度)
②失効代休利用制度(基幹職のみ)
③休職制度(勤続年数により12-18ヵ月)
④在宅勤務・サテライト勤務
⑤GLTD制度(傷病による長期療養時の収入保障制度)
- (3) 事例がありましたら具体的に教えてください
・上記①②③=長期療養が必要な社員に随時適用
・上記④=在宅勤務の事例:基本は在宅、しかし体調により在宅勤務を利用可能
・上記⑤=従業員が加入している福利厚生制度の「共済会補償(標準報酬月額20%)」と「任意加入オプション(標準報酬月額の最大80%まで)」があり、金銭的にバックアップ
・その他=時短・時差・サテライトオフィス勤務の業務配慮事例:出勤・退社時間を1-2時間ずらし、満員電車を避けて出勤等、在宅勤務と同様に本人と上司の間で調整して適用している。
※パート等雇用形態により適用されない従業員もあり
- (4) 上司や同僚に対する病状や勤務体制などの周知などを行っていますか
・上記①②③については、人事部より上司へ共有している。また、同僚に対してはまずは罹患者の気持ちを確認したうえで、上司の判断に任せている。
- (5) 上司や同僚からの不満の声がありますか。
・直接不満の声を耳にすることはありませんが、もしかしら不満に思っている人はいるのかもしれませんが、私傷病だけでなく、育児や介護も同様に周囲の理解が得られるように、両立支援は会社の取り組みであるということを知って行きます。
- (6) その他の取り組みがありましたら教えてください
・仕事と〇〇の両立支援相談窓口設置
・新入社員へのがん教育
・私傷病の治療と仕事の両立支援ハンドブック作成・配付
- (7) 今後、実施(予定)の取り組みがありましたら教えてください
・がん教育
・私傷病支援に関する実態把握アンケート(e-ラーニング)
・がんアライ部隊(民間プロジェクト)の「がんアライ宣言」

◇アンケートのお願い カナリヤ通信では、2月号でも病中・病後を採り上げます。そこで現在、病気やけがをした社員に対する制度を配慮等の取り組みなどを行っている企業にアンケートをお願いしたいと考えています。アンケートにご協力いただける場合は、ご連絡下さい。

亀の子スポンジに新色登場

亀の子東子西尾商店

毎日使う台所のスポンジ。「どこにでも売っているし何でもいいわ」と思っている人も多いのでは。でも、違うのです。今回紹介する亀の子スポンジは、①高い抗菌力②水切れ・泡切れ③使いやすい厚み④など、こだわりを持って製品化しているのです。①の抗菌力については、銀イオン系抗菌剤を練り込むことでスポンジ全体が抗菌されているので雑菌などの不安を軽減してくれます。また、不織布を張り付けていないのではかれることもなく両面です。②の水切れ・泡切れについては、やや目の粗いウレタンを採用することで抜群の水



切れ・泡切れを実現したため、ウレタンの加水分解を防ぎスポンジ自体が長持ちします。③の使いやすい厚みについては、厚さ2.7mmにすることで手の小さい女性でも持

て余すことなく使うことができるのです。さらに、今回は新色が登場。「ワインの葡萄」をテーマに赤ワインのメルローと白ワインのシャルドネをモチーフにデザインされています。テーマにちなんでパッケージには「ワイングラス」もあしらっています。何気ない日常の台所仕事に、おしゃれにカラフルなスポンジを使ってみてはいかがでしょうか。価格は各300円(税別)。問い合わせは、同社・電話03-3916-3231。◇『亀の子スポンジの新色2点セット』を抽選で3名にプレゼント!住所、氏名、電話番号を明記の上、編集部へファクスからご応募下さい。締め切りは2月8日(金)です。



Pura Vida ~人生を楽しむ

応用地質株式会社 津野 洋美さん



入社してから現場に9年(うち2年7ヵ月は産休・育休)、広報に9年、いまは人事部で採用と「働き方革命」を担当。思い起こせば20歳代、言われたことを泥臭くこなした。30歳代、個人プレーが多かった。育児と介護と仕事の両立。保育園のお迎えが19時を過ぎると延長料金を支払い、ファミレスで夕食を済ませ、ため息をつくこともしばしば。40歳代、子どもたちも手がからなくなり、たまに出張、たまに在宅勤務。企画書や報告書など、集中して考えたい時や、アイデアがほしいときに在宅勤務が有効。限られた時間

編集部放談

A. このごろ、同僚や友人でがんなどに罹患する人が増えてきたな、と感じている B. 若い女性の乳がん患者も増えているって聞きます C. 「万が一、自分が罹患したら」と思う反面「私は大丈夫」と思っている自分があります A. でも、病気が突然なるものだし、がんは日ごと健康に気がつ

けていても罹患する可能性があるから定期健診は必要だよ B. 早く見つかると治る病気になりつつあるから早期発見・早期治療は欠かせないですね C. 抗がん剤治療をしながら仕事に復帰する人もいるので会社の制度などバックアップ体制も必要になってきますよ A. 生活もあるから仕事は

連絡先はこちら

お問い合わせ 株式会社日刊建設通信新聞社 カナリヤ通信編集部 TEL03-3259-8711 FAX03-3259-8730

ご意見・ご感想、プレゼントの応募は canaria@kensetsunews.comまでお寄せください。 「カナリヤ通信」は、日刊建設通信新聞社の登録商標です。



webで公開中